

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和4年11月1日（火）

2 確認箇所

F1タンクエリア

3 確認項目

F1タンクエリアフランジ型タンク内包水の移送状況

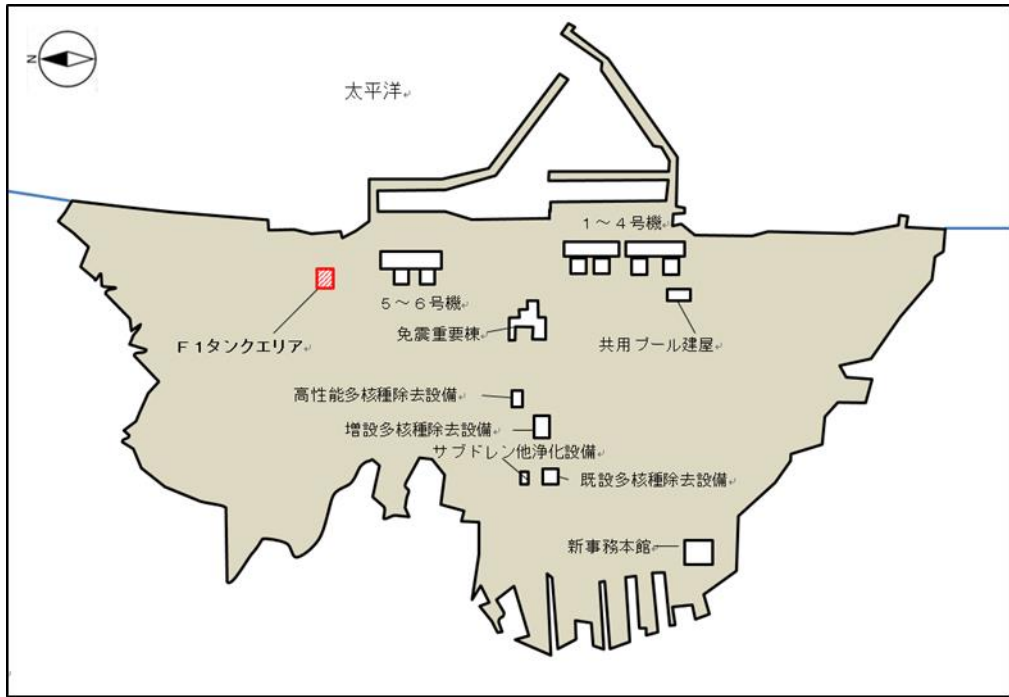
4 確認結果の概要

F1タンクエリア（5・6号機滞留水貯留タンクエリア）では、H・I・J群タンク（フランジ型）の運用を停止するため、令和3年7月より淡水化装置（RO）によるタンク内包水の浄化処理を開始しており、処理済水は構内散水し、浄化処理時に発生するRO戻り水は令和4年10月末までに同エリア内のN群タンク（溶接タンク）へ移送される計画となっていることから、現場の状況を確認した。（図1、2）（写真1）

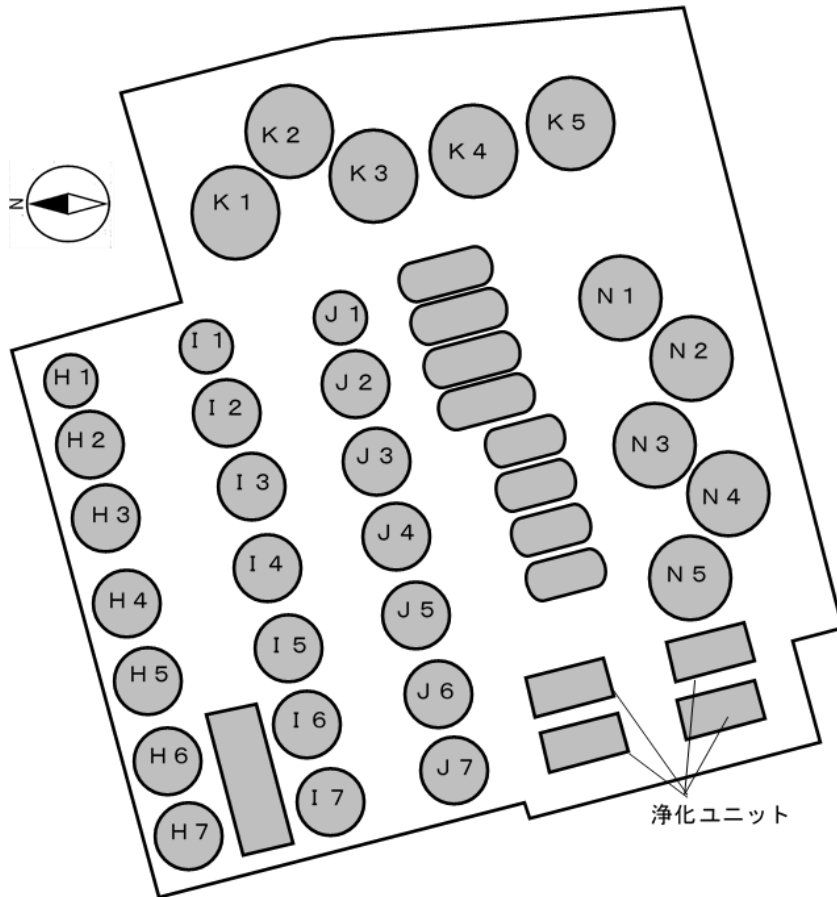
- ・H群（H1～H7）タンクとI群（I1～I7）タンクはそれぞれ隣接する同じ群のタンクと配管で接続されていた。また、H群タンクからI群タンクへ内包水を移送するための仮設配管が設置されていた。配管の接続部分は養生されており、下に漏えい防止用の受けパンが設置されていた。

（写真2）

- ・7月に内包水の移送が完了したJ群タンクはタンク下部のマンホールが開放されていた。マンホールの開放部には緑のネットが張られており、内部には乾固した泥状の物質が確認できた。マンホールの周辺はカバーオール等の着用が必要であるYゾーンに設定されていた。（写真3）
- ・東京電力は、H・I群タンク内包水のN群タンクへの移送作業をもって、F1タンクエリアのフランジ型タンクの運用を停止するとしており、来年度、F2タンクエリアのB・C群タンク（フランジ型）についても内包水を移送し、運用停止するとしている。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(図2) F1タンクエリア概略図



(写真1)
F1タンクエリアの状況



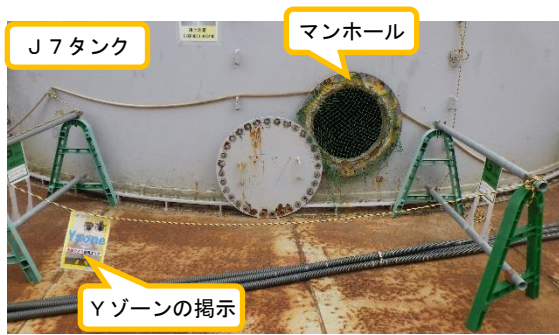
(写真2-1)
H群タンクの状況の例



(写真2-2)
H・I群タンク間に設置された内包水移送用の仮設配管の例①
※写真はH7タンクからI7への移送用



(写真2-3)
H・I群タンク間に設置された内包水移送用の仮設配管の例②
※写真はH7タンクからI7への移送用



(写真3-1)
J群タンクの状況の例



(写真3-2)
J群タンクのマンホール内の状況

- 5 プラント関連パラメータ等確認
本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。